



星・物語

丸善 1992年1月発行
Patrick Moore 著, 岡崎 彰・吉岡一夫訳
150頁, 定価1,380円

専門書

お薦め度
☆☆☆☆☆

本書はイギリス BBC の天文番組「スカイ・アット・ナイト」の解説者でもある著者の、一般向けの本である。十数個の様々な星の性質等について楽しく書かれているのだが、全体を通して読むと星の一生について理解できるようになっている。

内容を恒星天文学に絞り込んである分わかりやすく、織り混ぜてある天文学者についてのエピソードや神話等が取っつきやすい。読み進むうちに、頭の中に恒星天文学がすっきりとまとめられていくので、気持ちよく読んでしまった。

全体は17の章からなり、各章には、取り上げた星の名前にあわせて、身近で魅力的な表現の題がついている。例えば「SS 433…宇宙のスプリンクラー」といった感じであるが、それほど興味を持っていない人にも読んでみるきっかけを与えている。本当は、内容の索引になるような副題もあるとなお良いと思ったのだが、これは参考書がわりをもくろむ先生根性というものだろう。

一応、頭から順に読んでいくことを想定して書かれていると思う。また、章によっては、他とあわせて読んだ方がなお良いものもあるが、途中を一つだけ読んででも充分おもしろい。むしろ題を見て気に入ったものから読んでいった方がよいかもしれない。興味を持った部分を追って読んでいくうちに全部読んでいた、なんてことが充分に考えられる本である。

全体の流れはだいたい天文学の進展の様子に沿っている。最後の方で、いわゆる最先端の話にさしかかってからは若干の歯切れの悪さを感じたが、それがかえて現在進行形である学問の臨場感につながって、わくわくしながら楽しんだ。

また、この本の魅力として、どのようにしてその説を見出したかの経過がていねいに書かれ、違和感なく織り込まれていることがあげられる。もちろん、まちがっていたり、発見を逃した場合も描かれている。天文学者たちが、努力や苦労や喜びを積み重ね、どのようにして星々の真の姿を明らかにしてきたか、大変興味深く、読物としてもすばらしい。

ただ残念なのは、ビジュアル面で多少不満の残ることである。本文に、図版は多いものの全く写真が入っていない。著者のメッセージによると、原著には写真があるので、非常に惜しく感じられる。やはり写真で見たい図版がいくつかあった。

また、挿入された図版はどれも的確ではあるが、ものによっては、本来のサイズより大幅に縮小しているのか、少々見づらい。もっともこの本を読む場所として、通勤・通学の途上等が充分考えられるので、携帯によいこのサイズ(B6)からすると仕方のないことかもしれない。

この一冊で恒星天文学の概要がわかるようになっているので、天文を勉強し始めた高校生に薦めたい。この本を読んで全体像をつかんでおくと、より興味深く、もっと楽しく学ぶことが出来るのではないだろうか。もちろん、断片的に持っている知識をまとめたいアマチュアの方にも大いに薦めたい。

小菅 京(東工大附属高校 教員)